刊行に当たって

来るべき２１世紀の社会は、国際化、高齢化そして情報化等が進み、ますます、変化の激しい社会になると言われています。

２１世紀を展望した我が国の教育の在り方について、第１５期中央教育審議会「第一次答申」では、変化の激しいこれからの社会において「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむことを重視するよう提言しています。

この「生きる力」として、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」「豊かな人間性」「たくましく生きるための健康と体力」の三つをあげています。

とりわけ、社会における情報化の進展はめざましいものがあり、今後、情報化が更に進むことは確実です。このような社会の中で生きていく子どもたちは、誤った情報や不要な情報に惑わされることなく、真に必要な情報を選択し、自らの考えを築き上げて発信していく能力を身に付けることが大切になってきます。

同じく「第一次答申」では、教育において、どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらない価値のあるものと、時代の変化とともに変えていく必要があるものがあり、それを見極めて教育を進めることが重要であると述べています。

私たちは、情報化の進展という社会の変化に柔軟に対応するとともに、教育本来の目的を見失うことなく、この新しい教育の創造に取り組もうとし、「コンピュータを活用した学習指導の在り方」という研究主題を設定しました。

研究を進める際、「学習指導にどのようにコンピュータの機能のよさを生かすのか」「授業改善を図る一方法として適当な活用ができているか」「活用の際の留意点は何か」などを視点とし、常に学習指導の目標を念頭に置きながら研究を進めてきました。

本教育資料は、１年次の研究を踏まえるとともに、研究協力員の先生方の協力を得て、研究仮説の実践的な検証を行い、「コンピュータを活用した学習指導の在り方」についてより具体的な授業改善の方策を示したものです。

最後に、研究を進めるに当たり、積極的な御協力を賜りました各関係機関の方々及び研究協力員の先生方に厚くお礼を申し上げるとともに、この教育資料が有効に活用され、日々の授業が一層充実したものになるよう期待する次第です。

平 成 １０ 年 ３ 月

京都府総合教育センター
所　長　　池　山　良　武